

事例 11 : エプロン型 T 字ベルト

対象者の状況

- ⇒ 85歳、女性 要介護度4、寝たきり度C、認知症高齢者の日常生活自立度
- ⇒ パーキンソン症候群により筋拘縮がある。

身体拘束の状況

車椅子に座っている時、ずり落ちる危険性があるため、エプロン型 T 字ベルトをして固定していた。

対応方法の検討

ケース検討会において、座位状態の問題点と改善方法を検討したところ、パーキンソン症候群による筋拘縮が強く、背筋が張って腰が前にすべるような姿勢になりがちであることが指摘された。

また、日頃使用している車椅子について、フットレストに足がつかない、座面の幅が広く身体とアームレストの間の隙間が大きいなど、体型に合わない大きい車椅子を使っておられることがわかった。

対 応

少しでも本人の体型に合うよう、施設内にあった車椅子の中から幅がやや狭い車椅子に交換した上で、座面の圧力を分散し、すべり止めにもなる介護用のクッションを試してみた。

身体状況もあまり良好ではなかったため、日頃の状況から長時間座ったままだと疲労感があると考え、日中も、ベッドで休んだり座ったりを繰り返すように気をつけた。座位を取るのは、食事時間を中心に2時間程度を限度としていた。

経 過

車椅子を代えたこと、クッション等の用具がずり落ちの防止に効果があったことで、車椅子からずり落ちそうになることなく、安楽に座位を保つことができるようになった。

また、本人の体調にあった時間帯で座位を取ることにより、無理なく姿勢を保つことができた。

【着眼点（ポイント）】

本人の体型と車椅子が合っていないことに気付き、（わざわざ新たに購入するのではなく）施設内にある車椅子の中から、少しでも体型に合ったものを準備できたこと。

本人の体調を見計らいながら、座らせっぱなしにせず、ベッドで休ませるなどして、姿勢の保持をしやすくしている点

